

境界域知能と注意欠如多動症を持つ児童に対する特性を考慮した 読み書き指導について

Reading and writing train to a child who has boundary area intelligence and trait of ADHD

横倉 航¹⁾, 金子 忍¹⁾, 畦上 恭彦²⁾, 穴水 幸子²⁾

Key Words : 発達性ディスレクシア, キーワード法, MIM-PM, 音韻・非音韻ルート, フラッシュカード

はじめに

境界域知能と注意欠如多動症を持つ児童に対して、(5歳時点から7歳時点まで)行動面および学習面の問題に対する介入を行った。行動面の問題は落ち着いてきたが、平仮名の読みの問題が顕在化してきた。本児の特性を考慮しながら、平島(2013)が実施したキーワード法をもとに、読み指導を行った指導経過と結果を報告する。

1. 症 例

初診時(保育園年中)5歳7ヵ月, 男児, 左利き。多動・多弁あり。WPPSI知能診断検査は, 言語性IQ74, 動作性IQ80, 全検査IQ72, 絵画語い発達検査は平均の上の範囲であった。集団行動が上手くできないとのことで来院, 境界域知能と注意欠如多動症を認めた。運動発達や言語発達に目立った遅れはなかった。両親は本児に対して怒ることが多かった。環境調整を行い, 就学直前(6歳6ヵ月時)に行動面は落ち着いてきたが, 平仮名への興味が薄く, 読字習得の遅れを認めた。

2. 方 法

(6歳7ヵ月時から)平仮名の読み指導を実施する

にあたり, 理解語い力は良好であることを踏まえ, 意味を利用した訓練として, トライアングルモデルを用いたキーワード法を行った。絵と文字を合わせたカード(清音50音)を作成した。カードにかかれた絵を想起した後, ターゲット音(絵カードの最初の音)を音読してもらった。あ行から行い, 徐々に実施する文字数を増やした。50音すべて実施後, 絵を取り除き, 文字のみで提示した。清音音読獲得後は, 濁音・半濁音へと移行した。キーワード法を実施する中で, 眠そうな様子や姿勢崩れがみられた。本児の行動特性である競争心が強いことを考慮して, フラッシュカード方式に変更し, 時間を測定しながら実施した。訓練には教科書音読等も加えた。読みの訓練評価としてはMIM-PMを行った。MIM-PMは2つのテストで構成され, テスト①は音韻ルート, テスト②は非音韻ルートをみていると考える。訓練後再評価(7歳2ヵ月時)として, WISC-IV, 絵画語い発達検査を行った。

3. 結 果

清音50音読みを, 訓練開始1ヵ月後には絵と文字を合わせたカード, 訓練開始3ヵ月後には文字のみで実施した。訓練開始5ヵ月後, 濁音・半濁音へと移行し, 訓練開始7ヵ月後からは文字のみで実施した。それぞれ誤答率が0%となり, 所要時間の短

1) 国際医療福祉リハビリテーションセンターなす療育園リハビリテーション課 Wataru Yokokura, Shinobu Kaneko : Rehabilitation Division, Nasu Institute for Developmental Disabilities, International University of Health and Welfare Rehabilitation Center

2) 国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科 Yasuhiko Azegami, Sachiko Anamizu : Department of Speech and Hearing Sciences, International University of Health and Welfare

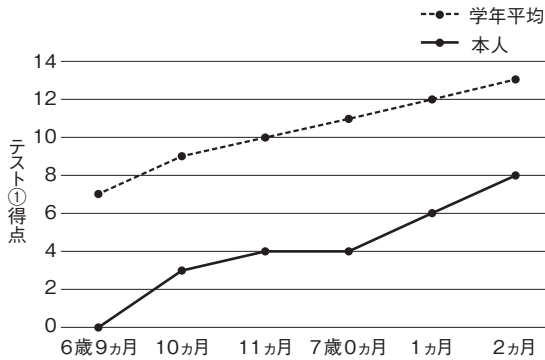


図1 MIM-PM テスト①結果

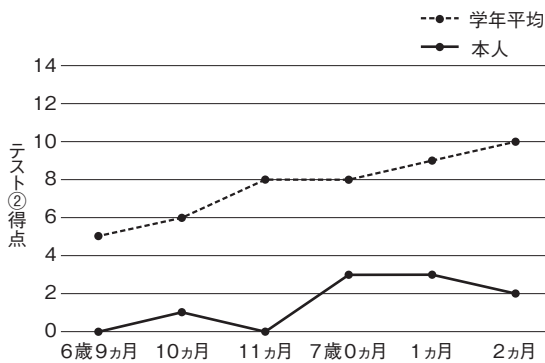


図2 MIM-PM テスト②結果

縮を確認後、次のステップへと移行した。フラッシュカード方式に変更後、訓練意欲の向上を認めた。MIM-PMテスト①は、得点の伸びがみられた。1問毎の所要時間の短縮を認めた。テスト②では、得点の伸びがみられず、1問毎の所要時間は長かった。教科書音読時には、逐字読みを認めた。学校では、入学当初と比べて、1文字ずつの音読はできるようになり、硬筆の時間も集中して行えるようになった。一方、単語や文章音読時は、語尾を変えて読んでしまうことがあった。WISC-IVでは、全検査102、言語理解97、知覚推理109、ワーキングメモリー88、処理速度110と知能の伸びを確認できた。絵画語い発達検査の結果に変化はなかった。

4. 考 察

平仮名の習得の遅れや逐字読みがあることから、

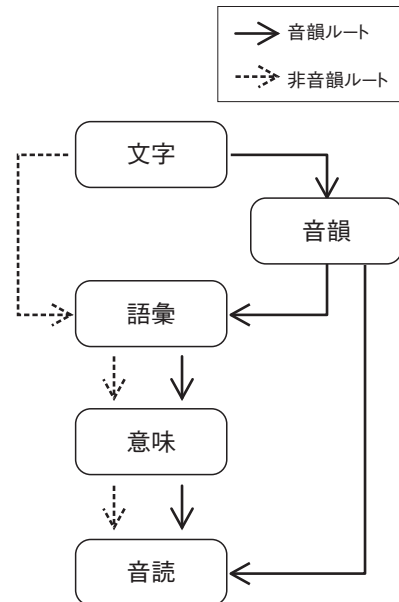


図3 音韻ルートと非音韻ルート

学習障害を認め、発達性ディスレクシアの経過の初期を検討できた。注意欠如多動症による行動面での問題が落ち着いてきたことで、読字障害がより顕在化してきた。しかし比較的良好な理解語い力を用い、キーワード法にて意味と文字と音韻を結び付けられたことや、学校での読み書きの学習時間が増えたこと、宿題等を通して家庭での読み書きの習慣が増えたことを理由に、清音の読み獲得やMIM-PMテスト①での得点が向上した。さらに、キーワード法を用いたことで、文字-音韻-意味の連結が強化され、音韻ルートの活性化につながり、その結果、MIM-PMテスト①で得点の伸びがみられたと考える。知的水準の向上にも、本訓練が有効だったと考える。しかし、依然として文字をみて直接的に文字と意味をつなげることは難しく、非音韻ルートの活性化には至らず、逐字読みである。この点が、MIM-PMテスト②で得点の伸びがみられなかった所以と考えた。

文 献

- 1) 平島ユイ子：音韻処理に苦手さのある読み書き障害児に対するキーワード法を用いた平仮名指導の結果。特別支援教育センター研究紀要，5：25-28, 2013.